

平成 28 年 3 月 8 日

南の風 175

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

JBAが示した、『マンツーマンディフェンスの基準規則』についてです。

各地区連盟で、マンツーマンコミッショナーの設置やゲームにおける運用について、協議していることと思います。

私見です。「マンツーマンを推進する」という方向には賛成です。しかし、この南の風でも書きましたが、「ゾーンディフェンスという戦術」に関することを、上部組織が「まった」をかけることには反対であると、今一度表明しておきます。

さて、運用していく面で難しいのは、マンツーマンコミッショナーが、「客観性をどこまで担保できるか」ということです。言い換えれば、如何に「客観性のある主観を確立して判断するか」ということです。コミッショナー個々によっても「ゾーンかどうかの判断」は異なります。

具体的に進めます。

まず3線のディフェンスです。以下抜粋です。《基準規則の4. オフボールディフェンス》には、ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフense側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側（ヘルプサイド）のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン（オフense側プレイヤー）及びボールも見えるポジションを取ること（ボールとマークマンを見る）。ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない。（ボールが動けば、ボールとオフense側プレイヤーが見えるポジションと一緒に動く）。ただしフェースガードで守る場合はその限りではない。

ボールを保持していないオフense側プレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフense側プレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線はミドルライン（リングとリングを結ぶ線）である。ただし、ヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフense側プレイヤーをトラップすることは違反である。

ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフense側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならないとありますが、このことの確認動作として、ナンバーコールやハンドサイン及びポジション移動があります。この一連のことを、コミッショナーが「点」で見ってしまうとゾーンと判断することになります。またオフボールマンになる瞬間の捉え方によって、イリーガルなディフェンスに見える場合が出てきます。これは、オールコートマンツーマンディフェンスを行う時の3線がパスカットに行くタイミングにも拘わってきます。特にオールコートプレスの場合、基準規則では3線の位置について触れていません。続きは次号にします。